



発行・カトリック水巻教会
 編集・広報委員会
 遠賀郡水巻町頃末南1丁目35-3
 〒807-0025
 TEL 093(201)0680 FAX(201)7354
 第355号

ホームページアドレス <http://mizumaki-church.sakura.ne.jp>

皆様、クリスマスおめでとうございます。マヘル神父

今年のクリスマスでイエズス様が、新たに皆様の心の中にお生まれになったことと思います。あなたの待降節の巡礼は、出来ましたでしょうか？イエズス様の呼び出しの声は、聞こえましたでしょうか？

イエズス様の呼び出しを識別して、従いましょう。まず、自分の予定より優先して従って行きましょう。

教皇フランシスコが奨めるように、宣教の刷新に熱心に取り組もうとしています。ここには日々の務めとして私達皆に課せられた一つの形があります。それは、身近な人にも、知らない人にも、自分との関わりを持った人に福音をもたらすということです。これは会話の中で行なったり、誰かの家を訪ねた宣教者が用いるような形式にとらわれない宣教です。まず、最初は、相手が自分の事を話したり、喜びや希望、愛する人に対する思い、その他、沢山の心の中の事を分かち合ったりするような個人的な会話です。この宣教には、いつも相手への敬意と優しさがあります。ある出来事との出会い、ある人格との出会いです。この出会いが、人生に新しい展望と決定的な方向付けを与えるからです。

今年は水巻地域に宣教活動ができるように、努めていきましょう。私達は今、「心のともしび」を皆様に配っていますが、これも

宣教の一つです。今年は教会の皆さん、もっと宣教活動に熱心に取り組みましょう。

聖書 100 週間について

第一回目の聖書 100 週間が終わりました。今から第二回目の聖書 100 週間の募集を始めます。聖堂後ろの机の上に、そのための講座の説明のプリントと希望日などのアンケート用紙を用意していますので、参加されたい方は記入して箱に入れてください。なお、実施する時期は、アンケートの結果によって決めさせていただきます。説明のプリントは皆様多めにお持ち帰り、お知り合いにお配りください。では、皆様の参加をお待ちしています。

今年も、皆様の上に、神様の豊かな恵みがありますように。

そして、新年あけましておめでとうございます。今年も宜しく願います。2017 年はあなたにとって、良き年でありますようにお祈りいたします。

熊本震災ボランティア報告・・・	2・3面
委員会報告・・・・・・・・・・	4・5面
幼稚園から・・・・・・・・・・	5面
世界宣教の日にあたり・・・・・・・・	6面
白濱司教様講演・・・・・・・・・・	7面
お知らせ・教会学校・・・・・・・・	8面

熊本震災ボランティアの記録

山口一隆

熊本へボランティアに行ってきました。10月22、23日、12月10、11日の二度にわたる体験でした。都合4日間、農業、作業ボランティアいずれも体験。体力的には疲れましたが貴重な経験になりました。

その体験を語る前に、ちょっと報告。12月10日、ボランティア集合地「萌の里」に於いて西原村村会議副議長の山下さんに水巻教会の「小教区の集い」のイベント、バザーで集まった収益金、38,890円と12月18日に行った街頭募金の一部、五万円をプラスした都合88,890円を義援金としてお渡ししました。また、この日は西原村の農業ボランティア応援団体である百笑応援団のリーダー川井さんにも会うことができ、義援金のお礼を承りました。その時の記念写真と記事が、「フェイスブック」に掲載されましたので、縮小版ではありますが、載せておきます。

西原村を通しての百笑応援団への義援金は、9月に同組織を立ち上げてから、初めての義援金ということもあって、「組織の励みになった」と大喜びでした。その後堰を切ったかのように、12月18日現在、3件の義援金が届いたと「フェイスブック」記載がありました。水巻教会の義援金がどうやら「呼び水」になったようです。ちょっと嬉しいニュースでした。

早速、ボランティア体験談に移ってみましょう。10月22日、あいにくの前日から雨で、集合先に行くと屋内でできる作業を—ということから「芋のヘタ切りと選別」作業を行うこととなりました。男性3人(リーダー川島、秦野、山口)、女性2人(表、福田)が配属された曾我さん宅へ向かいます。曾我さんのご自宅近くに建った納屋での仕事。慣れぬ手つきで、芋のヘタ取り、ひげ取りを男性陣が、選別作業を女性陣がそれぞれに手分けをし、押っ取り刀のスタートです。最初こそ一箱を空にするのに数十分を要したものの、少しずつ作業ペースも上がり、最初は「どうなるものか」と思っていた納屋いっばいに積まれた芋の箱も半量ほどは片付いた様に感じられました。曾我さんのお宅で作られている芋は「スイート」という種類で東京、大阪の大都市圏、福岡にも一部卸されている高級種とかで、大変に美味でした。

翌22日は、同じ納屋でも納屋の品物の大掃除。作業ボランティアで、最初から12人のボランティアが同作業に従事しました。(被災者のお名前、場所は伏せてくださいとのことでした。)この日も当初こそ一日で終われるのだろうかと思われる程でしたが、途中で加わった新に加え、作業の慣れもあって作業予定時間を超えることなく終わることが出来ました。

12月10、11日は快晴、両日にわたって畑での農業ボランティアに勤しみました。今回の参加者は4人(川島、秦野、古川、山口)。冒頭に記した村議の山下さんの畑で、人参の植え付けから冬を越すためのビニール張りのお手伝いを行いました。播種は機械植えのため山下さんの手際を眺めるばかり。ややして、ビニール張りのための棒を立てていきます。これがなかなかの力仕事。カーブ地面に棒を立てたと思っても、手慣れた研修生や山下さ

んの奥さんの手に掛かるとさらに棒は深く入っていきます。後戻りしては、さらに力を込めて棒に立ち向かいますが、それでも暫くすると、要領も分かり手早くなってきます。その反対側では付き立った棒を手元にたぐり寄せ、地面に突き刺します。これもなかなか難しい作業で、深く突きさし過ぎるとビニールハウスの高さが揃わず、試行錯誤の繰り返しでやっと要領が分かり始めたころ、作業は終了。

翌日はビニール張りから始まりました。ビニールを端の杭に縛りつけ、90メートル近くある反対側の端までビニールを張っていきますが、ちょっとでも風があるとビニールが風に流されせっかく合わせた中央が大幅にずれてしまいますので、仮止めしながらの作業です。その後前日の要領で風止めの棒を渡していきます。二日にわたる作業の慣れでこの日は、一時間ほど早く作業終了。

通算4日間の、作業、農業ボランティアでしたが、慣れぬ仕事に当初は四苦八苦。疲れた一っけど、意義ある4日間でした。参加したメンバーの皆さん、そして何よりも暖かい気持ちで指導していただいた被災者の農家の皆さんに感謝の言葉を述べさせていただきます。

西原村百笑応援団—西原村農業復興ボランティアセンターさんより 12月10日

水巻カトリック教会さんから寄付をいただきました。ありがとうございます。先日のチャリティーバザーの収益と私たちの活動を応援する気持ちを届けていただきました。今まで補助金等一切いadakず、ボランティアの皆さんや農家さんの協力もあり、できる限りお金をかけずに活動をつづけてきました。大切にに使わせていただきます。多くの方々が応援してくれる気持ちが、私たちの原動力になります。応援してくれる方がいることがとてもありがたいと改めて感じさせていただきました。本当にありがとうございました。



委員会等報告

2016年12月分

12月度小教区委員会 12月4日

議事録詳細は聖堂後ろに掲示してあります。

1. 行事予定

- 1月1日(日)深夜ミサ 0:00~1:00
元旦ミサ 10:00~
ミサ後車の祝福、成人式、茶話会
- 1月15日(日)小教区委員会 午前
部のみ開催
信徒協代表者会議、司祭との懇談会、
交流会 13:30- (小倉教会)
- 1月21(土) 役員会
- 1月29日(日) 北九州聖書講座

2. 議事

(1)成人式について

マザーテレサ列聖にちなんで成人を迎える方にマザーテレサに関する本をプレゼントする。

(2)駐車場の壁補修・隣家とのブロックにひび割れ等あり→ 費用 535,680 円は隣家と折半することで了解を得た。

無事に工事も完了しました。

(3)2017年度の予算策定日程について

~12月17日 各委員会の予算要望受け

12月17日 役員会にて予算案策定

12月18日 委員に配布

1月15日 小教区委員会にて予算案審議

1月21日 役員会にて取りまとめ

2月3日 福岡教区届出 締切

(4)小教区祭の反省・食品に売り切れあったが、人員に限りがあり精一杯だった。

→ 収益:4万ほど(熊本支援に送金)・うど

んは100円分では量が少なかったとの意見が出た。次回の検討課題とする。

• 作業分担の地区割りについて
労力に限界を感じた。地区割りには無理がある。地区の人々の交流もでき、作業分担を振り分けやすいので地区割りの方が良い。

上記の様な2つの意見が出た。次回の検討課題とする。

• コンロなど火を使う場所(作業場所)が足りない。信徒会館入口は狭いし危険。

コンロ5台は必要。雨が降ったため、外にも出せなかった。代替案として、車庫の活用、司祭館の台所活用、幼稚園の台所活用といったアイデアが出された。

• フリーマーケットで残った品物は一時保管しておく。平和の集い等、機会があればバザー用品として出すこととする。

(5)五島巡礼旅行の準備

実行委員会を発足させることとする。実行委員は参加者の中から選ぶ必要がある。年始から参加募集を始め、一旦、2月末に募集を締め切ることとする。参加予定者の中から会計等、実行委員会メンバーを決めることとする。以上

その他お知らせ

●成人式おめでとうございます。

9名の方が成人を迎えました。

濱崎侑梨さん(芦屋地区) 佐藤蓮さん(梅ノ木地区) 上甲銀河さん(折尾地区)

間柴亮太さん(遠賀地区) 井上創太さん
(中間地区) 川島涼華さん(中間地区)
秋好りえさん(中間地区) 池松康博さん(吉
田地区) 山本竜太郎さん(吉田地区)

●カトリック福岡教区信徒協 研修会

2月11日(土、祝日) カテドラル大名町
教会にて開催 10:00~16:30

「福音と平和の集い」いのちを大切にす
る社会をめざして ~見て、聞いて、知って、
働く~

詳細は掲示板のポスターを参照。

下記7つの分科会が開催されます。是非、
参加ください。申込みは1月18日までと
なっています ①憲法問題 ②玄海原発問
題 ③障害者問題 ④子供の貧困問題 ⑤
死刑廃止問題 ⑥外国籍・移住労働者問題
⑦Sr.マリア・コラレスを囲んで

●巡礼旅行 参加者募集開始!!

日程 5月3日~5月5日 (2泊3日)
行先 五島(宿泊先 有川ビーチホテル)
定員 29名 申込締切 2月26日(日)
マイクロバスとフェリーで移動します。バス
代、フェリー代、宿泊費は 28,000円/人
です。他に食費等の費用が必要となります。
5月3日の朝6時に水巻教会を出発。

小教区委員会では、10月以降、各月の定
例の話合いの後、午後に、特別な討論(駐車
場献金の扱い、営繕献金(新設含む)、納骨
堂献金の扱い、小教区委員会規約について)
の時間を設けています。1月に限っては実施
されません。(広報委員会より補足)



水巻聖母幼稚園から1月のお知らせ

新年 明けましておめでとう ございます!

昨年はクリスマス会などでお世話になりました。

今年も宜しく願いいたします。

☆「みんななかよく」

日時: 1月12日(木) 10時30分~

人形ボードビル・ドラ 「笑顔の宅急便」



いつも水巻聖母幼稚園へのお祈り・ご協力ありがとうございます。

ぜひ皆様 ご来園ください。職員一同お待ちしております!

「～世界宣教の日にあたり～『福音の喜び』Part.2」

先月に続き、10月23日実施の大人の日曜学校(小田神学生の講話)の掲載を行います。前回掲載は【1. 宣教とは何か】について語られました。続きを掲載します。紙面の都合で、本文とレジュメ版を混ぜて掲載することをお許し下さい。

【2. 人間の望み、神の望み】

私の今に至るまでの歩みを振り返ってみますと、良い事も悪い事もありながら、曲がりくねった道を歩みつつ、今、神学生として、福音を伝える者となるべく、修行の日々を送っております。その事を思うと、私は幸せな道を与えられたと思います。信仰の目で見ると、必要な事であったと思えます。

ところが、この世的な考え方に頭が切り替わったとき、今までの自分の人生を振り返ってみると、全く逆の評価になってしまう事があります。それは今までの自分の歩みが、なんと効率が悪く、回り道ばかりの人生であったことだろうという否定的評価になるという事です。

しかし私はある時点で、キリストと出会い、そこで、今まで知ることのなかった幸福や価値観を知ることになりました。その自分に与えられた、新しい生き方は、それまでの自分が、取るに足りない無駄なこととか、切り捨てたいと思っていた弱い部分とか、そのような部分に、キリストが光を当て肯定して下さったという所から、生まれて出てきたと思っています。

『福音の喜び』 121 (一部抜粋) イエスなしの人生は違ったものになることを、皆さんの心は知っています。あなたが見付けたもの、あなたを生かすもの、あなたに希望を与えているもの、これこそあなたが他者に伝えるべきものです。

『信じる力』岡田武夫著 P.163 キリスト教のメッセージの中心は、神がすべての人、つまり、この人、あの人、このわたし、という一人ひとりを絶対的に愛しておられ、そのすべての人が永遠の命にあずかることを望んでいるということ。現代の日本に今最も必要とされていること、それは、この一人ひとりには無限の価値があるという福音です。

◎まとめ： 全ての人々、被造物が神様からよしとされ、愛されてつくられたものであるというメッセージ、このことこそ、福音宣教において、まず伝えるべきテーマなのではないでしょうか？(小田)

【3. キリストを紹介していくこと】

『福音の喜び』264 福音宣教の第一の動機、それは、わたしたちが受けているイエスからの愛であり、イエスをますます愛するようにとわたしたちを促す、救いの体験です。しかし、愛する人について語ることに、その人を他人に紹介することに、その人を知ってもらうことにも必要性を感じない愛とは、いったい何でしょうか。

◎まとめ：それぞれに、かけがえのないキリストとの出会い、人々に紹介したいと思っているキリスト像があり、その姿を伝えていくことが、何よりも福音宣教、そして世界宣教

につながるものではないでしょうか？(小田)

白浜司教様講演 「典礼奉仕の心構えとその養成」(9月22日、大名教会)

先月に引き続き、白浜新司教様の講演を掲載します。

4. ミサの表現手段の工夫

ミサの表現手段としては ①ことば ②音楽 ③しるし(場所・シンボル・動作) の3つがある。それぞれを豊かにする工夫が紹介されました。

①ミサ 解説、司祭のあいさつ、説教、共同祈願

ここで、ことばの祭儀の導入は司祭でも信徒でもできる。ことばの祭儀の導入は最初に3つの朗読分をまとめて行うこと。第一朗読、第二朗読、福音それぞれの前に導入(解説)を述べることはダメとの注意がありました。

②音楽 典礼暦、主日を意識して選択。どのような会衆か、子どもが多いのか、お年寄りが多いのか。聖歌隊はいるのか等々、いろいろ考慮して選べばよい。「歌うことは2倍祈ることである。」とも言われるが、必ず歌えというものではない。決められたことより、そこに集っている人を大切にするように。

③しるし 会衆席、司式者席、朗読台、祭壇などの配置(但し教会が建てられてからだと変えるのは難しい。教会を建てる時によく考えておくべき)

小グループのミサ、子どもミサ、野外ミサなど形態に応じた工夫。

手をつないで「主の祈り」を唱えたり、自由な形で「平和のあいさつ」を交わす。

5. ミサにおける具体的奉仕

会衆、解説者(司会)、朗読者、詩編唱者、侍者はそれぞれ重要な役割を持ちますが、手身近に語られた様です。一人でも多くの方が典礼に関わりたいという「奉仕の心」をもつよう促していくことが大事であるということを強調されていました。

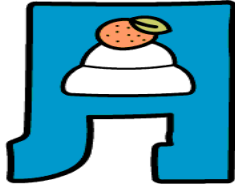
6. 質問コーナー

①ミサで聖体拝領時の未洗者への祝福について

ミサにあずかること自体が祝福にあずかることである。派遣の祝福はミサ全体を通じて恵みにあずかったことを改めて“しるし”をもって意識づけるという典礼上の意義がある。典礼上は、聖体拝領時に特定の人だけを祝福する意義は見い出せないが、白浜司教様自身は聖体拝領時に未洗者が来られた時は、「歓迎の意を表する」との意味付けで手をかざすことにしている。ただ日本の司教団としては、聖体拝領時の未洗者の祝福はダメという申し合わせはしておらず、各司祭の判断に委ねている。バチカンでも議論されているところである。

①オルガニストは未信者でもいいか？ 未信者でもかまわない。「奉仕したい」という気持ちを大切にすべき。但し、信者でオルガンを弾ける人がいるのに、未信者の人の方が上手だからと言って、未信者だけがオルガンをひくのは考えもの。二人で交互に担当するなどの工夫を。③花を活ける心構え：祭壇より花が高いなど、花が目立つということがないように。ま

た祭壇よりマリア様の周りの方が花が多いといったことのないように。祭壇が中心。④拝領の歌が早く終わってしまったときにオルガンのソロを入れてもいいのか？問題はない。



★深夜ミサ・元旦ミサ★

12月31日(土)午後11時～

ホーリーアワー(祈りの時間)

1月1日(日)午前0時 深夜ミサ

午前10時 元旦ミサ

★特別献金★

12月4日 宣教地司祭育成献金

29,050円

ご協力、ありがとうございました。

★特別寄付★

遠賀地区の島向正則さんよりご寄付をいただきました。ありがとうございました。

人・ひと

【帰天】安らかに！

11月20日

◇島向 栄子さん(遠賀地区)

11月30日

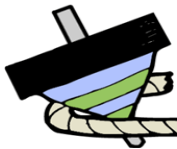
◇尾林 照子さん(芦屋地区)

12月7日

◇真浦 ヨシ子さん(海老津地区)

12月16日

◇赤木 住太郎さん(吉田地区)



教会学校のページ

12月11日

参加者 山田 蓮さん

待降節第3主日の福音マタイによる福音11章2節～11節を聖書より再読しました。小田神学生が解説してくださいました。

例年郵送している高齢者の方へのクリスマスカードの作成・準備をしました。



ザビエル聖堂献堂3周年記念講演会

赤間地区 矢田公美



ザビエル聖堂献堂3周年記念講演会が2016年11月12日(土)山口県宇部・小野田地区担当司祭の片柳弘史神父を迎えて行われました。テーマは、「いつくしみの証人～マザー・テレサ列聖を記念して」でした。

9月4日バチカン・サンピエトロ広場での列聖式は、12万人の参加者で10時開式のために朝7時半から待機、33℃の炎天下だったそうです。

聖人とは、すべてを神に委ねて生きた人で、聖人の生涯は、福音書の現代語訳ともいわれます。フランシスコ・ザビエルとマザー・テレサは、どちらも西洋から東洋に宣教のために来られたという共通点があります。

フランシスコ教皇のミサ説教の一部が紹介されました。「神の愛に他の選択肢はありません。隣人への奉仕のために自分を差し出す人こそ、神を愛する人なのです。」「この疲れを知らないいつくしみの働き手が、わたしたちにとっての唯一の行動規範は、無償の愛だということをもますます理解させてくれますように。」

片柳神父が召命について迷っておられる時、ヨハネ・パウロ二世の言葉に気付きを受けたそうです。「召命とは、自分の存在の深みであなたたちが受け入れ、生きる神秘的なのです。祈りの親密さの中でイエスはあなたたちの目を覗き込み、あなたたちの心に語りかけます。」わたしたちは通常、存在の浅いところ、心の表面、頭で損得を考え判断します。自分の心と向き合い、心の奥底にいる神の声を聞くことで、本当の自由を生きることが出来るのです。

講演の後半は証言でたどるマザーの生涯でした。マザーはバルカン半島のスコピエで、アルバニア人移民両親の3人兄妹の末妹(アグネス)として生まれました。兄はラザロ、姉アガ、父ニコラは成功した商人で市会議員もやっていたようですが、マザーが7才の時急死しました。母はドラナで、兄ラザロは、マザーのノーベル賞受賞の頃「みなさんがマザー・テレサと呼んでいる人物はうちの母の生き写しです」と言ったそうです。マザーは、年を取ればとるほど話し方やしぐさ、顔も母親に似てきたそうです。マザーがいつも言っておられた「大切なのは、神さまを悲しませないことです」(母ドラナ)「フィレをおぼえていますか。彼女は全身の痛みを訴えていましたが、彼女を一番苦しめたのは、痛みではなく、自分が世界中でひとりぼっちだという事実でした。」(母ドラナ)ドラナはとても信仰の篤い人で幼いアグネスの手を引いて毎日教会に通っていたそうです。「マザー・テレサといえども、天から降ってきたわけではないのです。神さまがすべてを準備していたのです。」(兄ラザロ)マザーは決して人の悪口を言わなかったこと、無駄遣い、特に電気の無駄遣いが嫌いだったことは

お母さんの影響かもしれないそうです。マケドニアが共産圏に入る前まではドラナとの文通が出来たそうです。

マザーは、ロレット修道会のシスターとして16年間学校で働きました。黙想のためダーズリンに向かう列車の中で、貧しい中でも最も貧しい人びとのうちにおられるキリストに仕えるためスラムに出るようという呼びかけを聞きました。1948年最初の「神の愛の宣教者」シスターとしてスラムに出て、教師の体験を生かし、広場で子ども達に初等教育や衛生教育を始めました。やがて、ロレット学校でのマザーの教え子達が、一人、二人とマザーのもとに集まってきて12人になったとき、「神の愛の宣教者会」を創立しました。

1952年ヒンズー教寺院の宿泊施設だった建物で「死を待つ人の家」を設立した時、猛烈な反対運動が起きました。警察署長が外に出て人びとに『マザーを追い出してもいい、その代わりに、ひとつだけ条件があります。あなたたちのお母さんや姉妹を連れてきて、代わりにこの仕事をさせてください』といったそうです。

マザーの死後、マザーがスラムに出た直後から11年間も「霊的暗闇」を体験したことが分かりました。しかし、マザーはその苦しみを『わが神、わが神、なぜわたしをお見捨てになったのか』と十字架上で叫ばれたイエスの苦しみを一緒に担う使命として受け止めるようになったそうです。1997年9月5日、マザーは、息子を失った親の相談に乗るなどいつも通りに活動しておられたそうですが、夜になって呼吸困難に陥り天の御父のもとに駆け戻っていかれたそうです。

マザー・テレサの言葉から：「大きなことをする必要はありません。小さなことに大きな愛を込めればいいのです。」「思った通りにならないからといって腹を立てるのは傲慢（原罪）です。」「自分を乗り越えてゆく道を神さまが示してくださいますように。」神の子として生きる基本は、現実を受け入れること。憐れみとかいつくしみと訳されるミゼリコルディアは、苦しんでいる人を放って置かずに、自分を捧げることです。その対極にあるのが、無関心、損得感情、あきらめです。